



IWC 2011

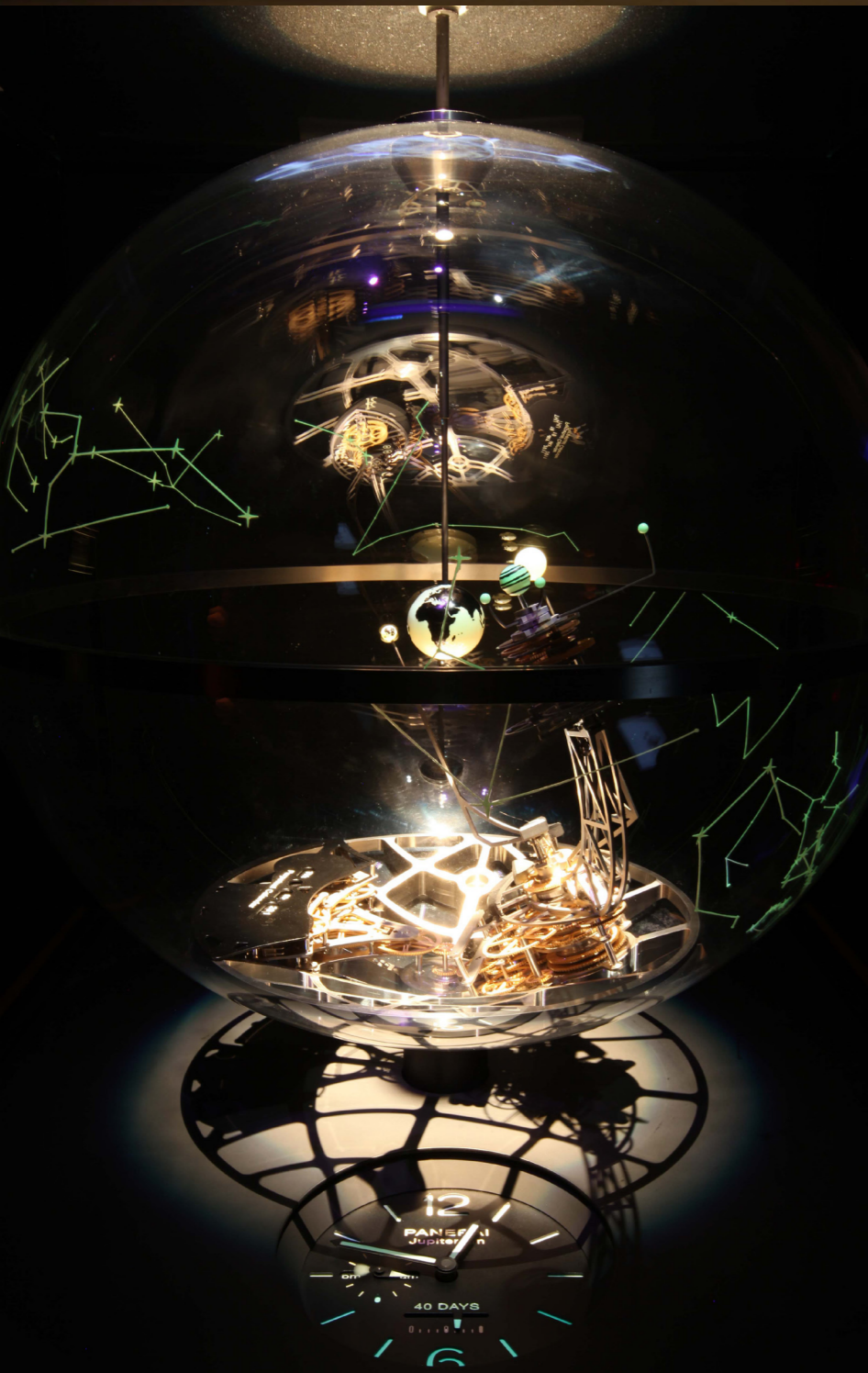
創業の
精神を礎に
発展する
「エンジニア」

7月はじめ、太陽に誘われて
ラインの水辺で
日光浴を楽しむ人々の
のどかな光景があった。
1868年の夏、
フロレンタイン・アリオスト・
ジョーンズはラインの水力に
感謝しながら、同じ光景を
眺めていたかもしれない。
川を見下ろすIWCの存在も
工房が建設された1875年
から今日まで変わることはない。
近年の目覚ましい発展を除いては。

文／香山知子（本誌編集部）
写真／青木健格（本誌編集部）、IWC



群星是天际中的孔洞
Stars Are Holes In The Sky



5月19日から31日まで、中国・上海城市彫刻芸術センターでガリレオ・ガリレイの功績を称えるとともに、第二次世界大戦から今日までのオフィチーネ パネライの歩みを伝える展覧会が開催された。時代こそ異なるが、それぞれの根底を支えるのは「科学探求の精神と創造のアイデア」だ。

写真／奥山栄一 取材・文／香山知子 本誌編集部

パネライ「タイム&スペース ガリレオに捧ぐ」 フイレンツェに流れる探求の精神



2011年最新モデルに見る

ブルガリ・デザインの 進化と創造

文/小野正章(本誌編集部) 写真/青木健悟(WP)

西暦2000年に始まった
垂直統合はブルガリの発展に
大きな役割を果たした。
ムーブメントの進化は
言うにおよばず、
文字盤、ブレスレット、
そしてケース・ケーサーを
次々に資本下に収め、
内製化を進めたことにより、
外装技術は飛躍的に高められた。
では、こうした技術を背景に
ブルガリの時計デザインは
いかなる進化をとげたのか。
2011年の新作を見ながら
その完成度を確かめる。

BVLGARI DIAGONO CALIBRO 303

薄型のコラムホイール式クロノグラフ・ムーブメントを搭載し、ディアゴノ誕生20周年の2008年に初登場した「ディアゴノ・カリプロ 303」。今年、ケースのリニューアルを施して、サイズは変えずにベゼル幅をやや狭く、より薄型化が図られた。

BVLGARI BVLGARI RESERVE DE MARCHE

サイズに変更を加えなかった「カリプロ 303」に対して、ケースの大型化を図ったのが、基幹コレクションの「ブルガリ・ブルガリ リザーブ・ド・マルシェ」。こちらでもベゼル幅を絞ることで、文字盤をより効果的に見せようとの明確な意図がうかがえる。

GERALD GENTA OCTO BI-RETRO

ハイエンド・ウォッチのアイコンとして、ジェラルド・ジェンタの意匠を踏襲する「オクト・バイレトロ」。派手なカラーリングはやや控えめに、ケースサイズとベゼル幅をわずかにアップさせながら、よりシャープなフォルムにリニューアル。

高級時計文化の継承者たち 第1回

ヴァシュロン・コンスタンタン

過去への敬意こそ 発展の 原動力

1755年、ジャン・マルク・

ヴァシュロンの商標で時計を

世に送り出して以来、

ジュネーヴ最古の時計メーカーで

あることを誇りとして

ヴァシュロン・コンスタンタンは

今日までの歩を進めてきた。

それは時代の荒波にもまれながら

継続の努力を重ねた結果だが、

その努力を力づけてきたのが

アーカイブに保存される

過去の名品の数々だ。

